

嘘のような本当の話（1）

1月フロアで郵便番号15円3辺目打漏れ（第2角ペア）が出品されています。1年前の第1角に続く同一出品者による物です。

本来は聞くべきではないのかもしれませんが、これらの入手のいきさつを思い切って尋ねてみました。

今から50年以上前、兵庫県北部のとある郵便局に勤務されていた頃、記念切手が出る度に買い求める位のプチ収集家で楽しんでおられたようです。発売準備で切手を確認していたところ、1シートのみ上部一列だけ目打が漏れていることに気づき、「これは面白い」と慌てて一列を手切りして購入したそうです。時を経て前回出品頃より終活を思い立ち、出品を決断されたようです。

以下、御本人との会話…

「御話の通り上一列でしたらこれら2点の間の6枚、ペアなら3点御持ちだと思うのですが？」

「持っていますよ」

「それらは御処分されないのですか？」

「考えていません。冥土の土産に持っておこうと思います。」

「わかりました。」

「冥土に行かれる途中でまた一度御立ち寄り下さいませ」

「……」

金坂 忠彦

